

## 盛山文部科学大臣が災害科学国際研究所を視察 (2024/5/18)

テーマ：文部科学大臣視察、災害研紹介、海底地殻変動観測、歴史資料レスキュー、災害医療  
会場：災害研1階 展示スペース

盛山正仁文部科学大臣が5月18日、災害科学国際研究所を訪問されました。栗山進一所長や小野裕一副所長がお迎えして当研究所の理念や仙台防災枠組への貢献などを説明し、4人の教員が研究について紹介しました。

木戸元之教授（海域地震学研究分野）は、音波を用いて海底地殻変動を調べる方法について、海底に沈める「トランスポンダ」と呼ばれる装置の実物を見せながらデモンストレーションし、海域地震の研究にどのように活かされるのかを解説しました。

佐藤大介准教授（歴史文化遺産保全学分野）は、被災地での歴史資料レスキューの意義と、修復等の作業に市民ボランティアが活躍していることを紹介しました。視察当日は5人のボランティアの方が実際に作業し、資料のクリーニングやデジタルカメラでの撮影の様子などを盛山大臣に見ていただきました。

医師である佐々木宏之准教授（災害医療国際協力学分野）は、段ボールベッドとエアマット、手動ラップ式簡易トイレについて解説し、これらの使用で避難所の衛生状態が保たれると強調しました。また、医療機関のBCP作成についての研究、研修ツールを使った人材育成についても紹介しました。

濱家由美子助教（災害精神医学分野）は、被災地ではメンタルヘルスの問題が中長期的に持続しやすく、息の長いメンタルケアが重要であることを話しました。

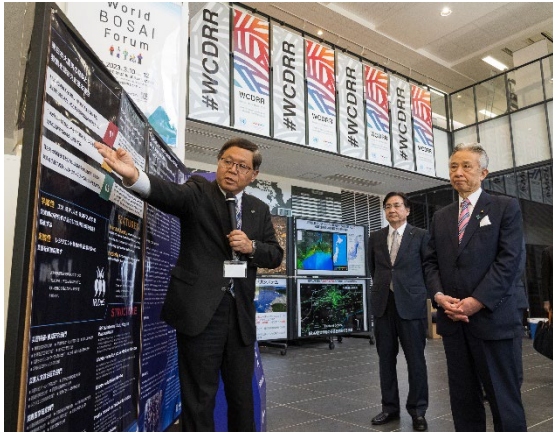
当研究所のある東北大学の青葉山新キャンパスでは、次世代放射光施設「NanoTerasu（ナノテラス）」の運用が4月に始まり、周辺は「サイエンスパーク」として整備される予定になっています。盛山大臣はこの日、ナノテラス運用開始の記念式典出席に合わせ、当研究所を視察されました。視察には東北大学の富永悌二総長ほか大学幹部、文部科学省の関係者も同行しました。当研究所からは事務部、広報室も準備などに携わりました。

文責：今野公美子（広報室）



（左から）小野裕一副所長、栗山進一所長、盛山正仁文部科学大臣、  
富永悌二総長、木戸元之教授

（次頁へ続く）



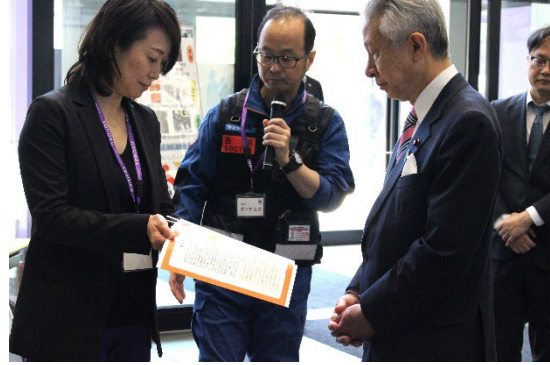
盛山大臣（右）へ当研究所の理念を説明する栗山進一所长（左）



ふすまの下張りとして再利用された古文書を慎重にはがすボランティアさん（手前の白衣の2名）。右が佐藤大介准教授



災害派遣医療チームDMATの活動服を着用して解説する佐々木宏之准教授（左）



メンタルヘルスの重要性について説明する濱家由美子助教（左）



海底地殻変動観測について解説する木戸元之教授（左）。写真手前がトランスポンダ